

# 外科的切除された原発性肺扁平上皮癌におけるがん免疫微小環境と肺気腫の関係性の探索的研究

2019年7月11日 第1.0版

2023年8月7日 第1.1版

## 1. 研究の対象

2011年1月から2015年12月までに当院で肺扁平上皮癌の完全切除をうけられた20歳以上の方のうち、病変の首座が末梢に位置しておりかつ間質性肺炎がなく、smoking indexが600以上の方。

## 2. 研究目的・方法

肺がんの組織はがんの細胞だけで構成されているわけではなく、がんの細胞の周囲には線維芽細胞や免疫炎症細胞、血管構成細胞などといった色々な種類の細胞がみられます。これらががん組織の中にある“非”がん細胞は「がん間質細胞」と言われ、近年、この「がん間質細胞」は、がん細胞の増殖・浸潤・転移という悪性像に影響を与えることが示されてきています。

がん間質細胞におけるそれぞれの構成細胞が肺がん自体の悪性像に影響を与えることは少しずつ明らかになってきましたが、もともとの背景肺によってがん間質細胞が異なっているが推測されており、これらに関しては未だ不明な点が多くあります。本研究では、背景肺に肺気腫がある方とない方によって肺がん組織におけるがん間質細胞の構成細胞とそれらの関係性、その方の寿命との関係性を評価することによって、さらなるがん細胞の悪性像の解明が期待出来、新たな治療方法・治療戦略の開発に寄与出来ると考えています。

本研究は2011年1月から2015年12月までに当院で扁平上皮癌に対して完全切除術を施行された患者さんの中で間質性肺炎の合併がなく、かつ濃厚な喫煙歴がある患者さんを対象としております。対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集します。また、切除された病変の組織を用いて免疫染色と呼ばれる悪性度を評価する検査を行い、免疫染色の結果を検討します。情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

研究実施期間は2019年08月17日から2023年08月16日です。

## 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：対象患者さんに関する年齢、性別、喫煙歴、術前治療内容、手術所見（術式など）、画像所見、検査所見（採血など）、病理診断結果（病理病期、腫瘍径、胸膜浸潤、血管浸潤、リンパ管浸潤など）、肺気腫の有無、予後等

試料：手術で摘出した組織

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究事務局：

国立がん研究センター東病院呼吸器内科

酒井徹也

千葉県柏市柏の葉6-5-1 04-7133-1111

研究責任者：先端医療開発センター(柏) 臨床腫瘍病理分野長 石井源一郎